



## 大阪部会 (No.88)

日時: 2024年2月24日(土) 15:15 - 17:10

場所: 同志社大阪サテライト+ZOOM会議

参加者: 参加26名(会場16名、zoom8名)

### 【内容要旨】

今回の部会は、Zoom やネット環境に不具合があり、予定より少し遅く始まった。

最初の報告は、玉木健吾氏(奈良県式下中学校)による「日本は金融緩和、財政出動の方針を今後も続けるべき?」と題する授業実践である。ただし、授業の内容に入る前に、玉木氏は社会科教育の目的についてふれ、学習指導要領の「公民としての資質・能力の基礎」やフレッド・ニューマンの「真正の学び」に言及しながら、学校での知識や探究が学校外での価値に結びつくことの重要性が確認された。その後に内容紹介された授業は、公民の金融・財政の箇所にあたる全6時間から構成され、日本銀行の役割、為替レート、財政政策、社会保障などが含まれている。それらの学習を通して、アベノミクスの評価を生徒なりにできるようにすることが目指されている。

報告に対して、参加者からは授業内容の多さやレベルの高さを懸念する発言や、生徒の反応や理解度についての質問があった。

次に、前回の部会で資料配付だけになっていた「高校入試問題の分析と授業への活かし方」が、李洪俊氏(大阪市立矢田南中学校)から報告された。大阪部会で長年にわたって報告されている入試問題分析である。\*2020年の分析は以下のホームページを参照

<https://econ-edu.net/wp-content/uploads/2020/12/2020ExamHighSchool.pdf>

2024年度の全国公立高校の入試問題から、1.地理的・歴史的分野の中の経済に関する出題、2.効率と公正の視点に関する出題、3.典型的な経済に関する出題、4.探究・提案に関する出題、5.時事問題・話題のテーマ・その他の出題、のそれぞれについて、いくつかの県の問題が紹介・解説された。分析の結果、2024年度の特徴として、用語や概念を解説させる論述問題、以前は出題されなかった話題や国際紛争を取り上げた問題、文章・資料・図版の多い問題、などが見られる点が指摘された。分析結果をふまえて、多面的多角的な見方を育む授業や、提案・選択する授業などが推奨された。

李氏の報告に対しては、知識中心の授業では対応し難いような提案型の出題は、入試問題でどれほどの配点なのか(重視されているのか)という質問があった。また、都道府県によって決まった傾向があるのか、それが継続しているのかという質問もあり、李氏からいくつか特徴的な県の名があげられた。

三つ目は、山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から「投資に関する教材の授業実践報告」があった。使用された教材は、東京証券取引所が作成し、昨年の「先生のための夏休み経済教室」でも紹介された『18歳からはじめる積み立てNISA』である。これは、成人になった18歳が将来のために投資するとの想定で、家計に応じた投資金額の決定、対象資産(4つの投資信託から選択)の決定、未来の様々な出来事による投資結果の変動、投資の見直しや振り返りへと進んでいくように作られている。山本氏は、本年2月の「公共」の授業で、高校2年生を対象に、この教材を使った授業を実施した。その成果報告からは、生徒達の関心が高く、楽しみながら投資体験ができたことが伝わってきた。



経済教育ネットワーク  
Network for Economic Education



この実践報告に対して、東京証券取引所の鈴木深氏と町田貴子氏から教材作成にあたっての追加説明と、生徒の反応や教材の課題などについての質問があった。また関本祐希氏（大阪府立市岡高等学校）からは、公共学習前の4月に一度実施し、学習後に再度実施することで、学習効果がどう反映されたのかをみることができるとの提案があった。

最後に、米田正樹氏（大阪府立松原高等学校）から、「3観点をふまえた授業づくり」という報告があった。事前に配布された資料は、「公共」の授業で使われた「社会保障制度の意義」と、世界史演習で使われた「パレスチナ問題を考えるロールプレイング」であったが、これらの紹介の前に、学校でどのように「公共」の授業を運営しているか、3観点（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）の評価をどのように行っているかに時間が割かれた。米田氏が所属する総合学科には普通教科から専門教科まで多様な選択科目があること、学校独自科目の「産業社会と人間」、家庭科や保健科との重複を避けるように事前の意見交換を行っていること、公共の授業を3人で担当し共通の授業内容・評価基準で授業を進めていること、評価の3観点を100点ずつで合計して評価していることなどが説明された。授業内容については、パレスチナ問題に関係する国家を、ウサギ、タヌキなどになぞらえたロールプレイングのみ紹介された。

報告に対して、奥田修一郎氏（高野山大学）から、事前配布された資料にある社会保障についての質問があった。社会保障に現実直面している生徒・家庭に対して、どのような教え方や配慮をしているかというものであった。関連する問いは河原和之氏（立命館大学非常勤講師等）からもあり、どのような状況にある家庭にどのような段階でどのような社会保障が必要なのか、議論する場があるとよいとの提案があった。また河原氏からは、パレスチナ問題のロールプレイングは、動物などになぞらえず、現実の歴史や関係する国家・民族・宗教などを明確にして学習、議論した方がよいとの意見があった。最後に原 雅史氏（大隅西小学校）から、社会保障授業に役立つ資料として、第一生命のライフサイクルゲームの名があげられた。

（文責：野間敏克）

次回開催予定：2024年5月19日（日）15:00～17:00、場所形式未定